

加西市

大崎・鳥居元遺跡

— 道路改良事業((主)三木穴栗線)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



平成25(2013)年3月

兵庫県教育委員会

加西市

大崎・鳥居元遺跡

— 道路改良事業((主)三木穴栗線)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成25(2013)年3月

兵庫県教育委員会

例 言

- 1 本書は加西市畑町大崎及び加西市畑町鳥居元に所在する大崎・鳥居元遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、道路改良事業（主）三木穴栗線に伴うもので、兵庫県北播磨県民局県土整備部社土木事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体として、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所を調査機関として実施した。また、出土品整理は、兵庫県北播磨県民局加東土木事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体として、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部を調査機関として実施した。
- 3 調査の推移
 - (1) 発掘作業
実施機関：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
〈本発掘調査〉 ・鳥居元遺跡第2次調査（遺跡調査番号2003065）
・大崎遺跡第1次調査（遺跡調査番号：2002205） 平成15年5月6日～平成15年5月9日
平成15年1月20日～平成15年3月14日 直接執行
工事請負：株式会社 河合建設 〈確認調査〉
・大崎遺跡第2次調査（遺跡調査番号：2002252） ・大崎・鳥居元遺跡（遺跡調査番号：2002151）
平成15年3月17日～平成15年3月18日 平成14年11月7日～平成14年11月8日
直接執行 ・鳥居元遺跡（遺跡調査番号：2002255）
・鳥居元遺跡第1次調査（遺跡調査番号：2002217） 平成15年3月17日～平成15年3月18日
平成15年1月20日～平成15年3月14日 ・鳥居元遺跡（遺跡調査番号：2003064）
工事請負：株式会社 河合建設 平成15年4月22日
 - (2) 出土品整理作業
平成24年4月1日～平成25年3月31日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
- 4 本書の執筆・編集は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部の森内秀造・非常勤嘱託員杉村明美が担当した。
- 5 本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。
- 6 遺物写真は調査担当者によるもので、空中写真測量は株式会社イビソク、遺物写真撮影については㈱タニグチフォトに撮影委託した。
- 7 本書に用いた方位は座標北を示す。また、標高は東京湾平均海水準（T.P）を基準とし、座標は世界測地系に基づくもので、調査地は第V系に属する。
- 8 遺物番号の表示は、本文・図版を通して統一した。
- 9 土層等の色調については、小山正忠・竹原秀雄編著『新版 標準土色帖』1992年版を使用した。
- 10 報告書作成の上で、加西市教育委員会から平成6年度発掘調査資料の提供を受け、また同教育委員会の森幸三氏からは発掘調査及び報告書作成にあたってご協力やご教示を頂いた。記して感謝の意を表するものである。

本文目次

第1章 調査に至る経過	1
第1節 調査経過	1
第2節 出土品整理作業	5
第2章 遺跡の位置と環境	7
第3章 大崎遺跡の発掘調査	9
第1節 遺構	9
第2節 遺物	11
第3節 小結	16
第4章 鳥居元遺跡の発掘調査	19
第1節 遺構	19
第2節 遺物	20
第3節 小結	21

挿図目次

第1図	加西市の位置	1
第2図	確認調査トレンチ配置図	2
第3図	大崎遺跡 確認調査トレンチ配置図	4
第4図	鳥居元遺跡 確認調査トレンチ配置図	6
第5図	遺跡位置図	7

本文写真目次

写真1	鳥居元遺跡 調査風景(1)	5
写真2	鳥居元遺跡 調査風景(2)	5
写真3	大崎遺跡 調査風景	10

表目次

表1	大崎遺跡 出土土器一覧表	17
表2	鳥居元遺跡 出土土器一覧表	22
表3	鳥居元遺跡 出土金属器一覧表	22

遺構図版目次

遺構図版1	大崎遺跡 全体図
遺構図版2	大崎遺跡 I区全体図
遺構図版3	大崎遺跡 II区上層全体図
遺構図版4	大崎遺跡 II区下層全体図
遺構図版5	大崎遺跡 II区SD01断面
遺構図版6	大崎遺跡 I区SB01・SB02
遺構図版7	大崎遺跡 II区SB03
遺構図版8	大崎遺跡 II区SB04
遺構図版9	大崎遺跡 II区SB05
遺構図版10	鳥居元遺跡 全体図
遺構図版11	鳥居元遺跡 I区全体図
遺構図版12	鳥居元遺跡 I区SH01
遺構図版13	鳥居元遺跡 I区SH01 カマド
遺構図版14	鳥居元遺跡 II区全体図

遺物図版目次

(大崎遺跡)

遺物図版1	II区 SD01上層出土土器(1)
遺物図版2	II区 SD01上層出土土器(2)
遺物図版3	II区 SD01下層出土土器(1)
遺物図版4	II区 SD01下層出土土器(2)
遺物図版5	ビット・包含層出土土器

(鳥居元遺跡)

遺物図版6	SH01・ビット・落ち込み出土土器
遺物図版7	包含層出土土器・金属器

遺構写真図版目次

(大崎遺跡)

遺構写真図版1	a) 大崎・鳥居元遺跡 遠景(西から)
	b) 大崎・鳥居元遺跡 遠景(南から)
遺構写真図版2	大崎遺跡 全景
遺構写真図版3	大崎遺跡 II区全景
遺構写真図版4	a) SD01全景
	b) SD01(南東から)
遺構写真図版5	a) SD01(北西から)
	b) SD01土層断面b(北西から)
	c) SD01土層断面a(西から)

(鳥居元遺跡)

遺構写真図版6	鳥居元遺跡 I区全景
遺構写真図版7	a) SH01(南東から)
	b) カマド(南東から)
	c) カマド内土器出土状況(南西から)
	d) カマド 土層断面(南東から)
	e) 土器出土状況(南東から)
遺構写真図版8	a) 鳥居元遺跡 II区(北西から)
	b) 鳥居元遺跡 II区(南東から)

遺物写真図版目次

(大崎遺跡)

遺物写真図版1	SD01上層出土土器(1)
遺物写真図版2	SD01上層出土土器(2)
遺物写真図版3	SD01上層出土土器(3)
遺物写真図版4	SD01下層出土土器(1)
遺物写真図版5	SD01下層出土土器(2)
遺物写真図版6	SD01下層出土土器(3)
遺物写真図版7	ビット・包含層出土土器

(鳥居元遺跡)

遺物写真図版8	SH01内出土土器・金属器
遺物写真図版9	a) ビット・落ち込み・SK01出土土器
	b) 包含層出土土器

第1章 調査に至る経過

第1節 調査経過

県道三木穴栗線は、北播磨を東西に横断する主要県道である。加西市街地から福崎町に至る範囲は、播但連絡道路福崎ジャンクション・国道312号線などの南北幹線道路につながることから、近年交通量の増加が著しい。このため道路の拡幅と歩道の設置を目的とする、道路改良工事が計画された。

今回調査の対象となった加西市畑町一帯では、圃場整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査が行われ、「大崎遺跡」「内垣内遺跡」「倉狭間遺跡」「鳥居元遺跡」などの埋蔵文化財包蔵地が周知されている。このうち、大崎遺跡・鳥居元遺跡の範囲に県道三木穴栗線の一部が含まれ、当該範囲の埋蔵文化財について、取り扱いを協議する必要があるが生じた。施工範囲は耕作地・住宅地として利用されており、埋蔵文化財の実態が不明確なことから、平成14年に確認調査を実施したところ、大崎ならびに鳥居元の一部において埋蔵文化財の存在が明らかとなり、本発掘調査を実施することになった。



第1図 加西市の位置

大崎遺跡・鳥居元遺跡（遺跡調査番号：2002151）

調査の種別：確認調査 トレンチ番号：1～4（大崎遺跡）
5～8（鳥居元遺跡）

調査期間：平成14年11月7日～平成14年11月8日

調査面積：32㎡

調査担当者：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
調査第1班 吉識雅仁

大崎遺跡

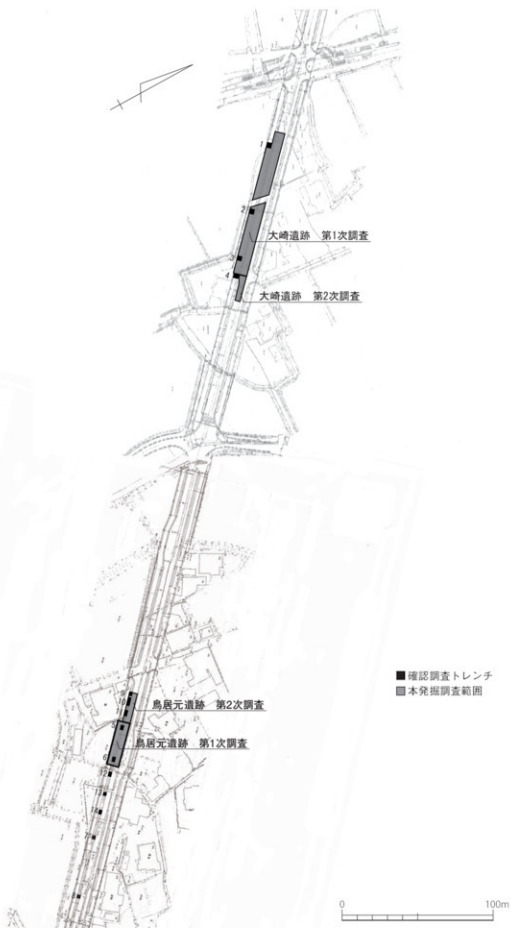
第1次調査（遺跡調査番号：2002205）

調査の種別：本発掘調査

調査期間：平成15年1月20日～平成15年3月14日

調査面積：734㎡

調査担当者：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
調査第2班 森内秀造・柏原正民



第2図 確認調査トレンチ配置図

第2次調査（遺跡調査番号：2002252）

経過：平成14年11月の確認調査結果に基づき、平成15年1月20日～平成15年3月14日に本発掘調査を実施したが、遺構の一部が当初の設定調査範囲よりも外へ伸びることが判明した。このため、新たに取り扱いを協議した結果、当該年度内に調査を実施することになった。

調査担当者：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

調査第2班 森内秀造・柏原正民

調査の種類：本発掘調査

調査期間：平成15年3月17日～平成15年3月18日

調査面積：29㎡

鳥居元遺跡

第1次調査（遺跡調査番号：2002217）

調査担当者：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

調査第2班 森内秀造・柏原正民

調査の種類：本発掘調査

調査期間：平成15年1月20日～平成15年3月14日

調査面積：183㎡

確認調査その1（遺跡調査番号：2002255）

経過：平成14年11月に実施した確認調査により、工事用地内に遺跡の存在が明らかにされたが、鳥居元地区では、建物物件等の存在によって、確認調査が実施できなかった箇所があり、本発掘調査は一部の範囲に留まった。その後、鳥居元地区において、建物物件が撤去されたことに伴い、県土木事務所と協議を行った結果、遺跡の範囲を明確にするために確認調査を実施することになった。その結果、遺構・遺物が発見され、遺跡の広がりが確認された。

調査担当者：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

調査第2班 森内秀造・柏原正民

調査の種類：確認調査 トレンチ番号：9～12

調査期間：平成15年3月17日～平成15年3月18日

調査面積：19㎡

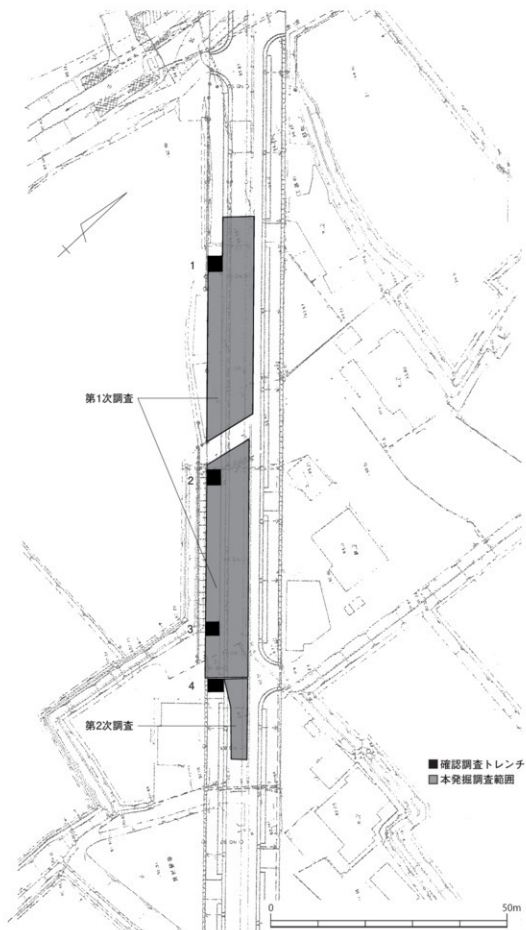
確認調査その2（遺跡調査番号：2003064）

経過：鳥居元遺跡については、建物物件の未移転等の理由により全体の確認調査が完了しておらず、平成14年度までに確認調査を実施した地区のみの本発掘調査に留まっている。その後、事業計画地に残る建物物件が完了したため、確認調査を実施したものである。この結果、平成14年度に本発掘調査を実施した地区の東側には遺構は発見されなかった。

調査担当者：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

調査第2班 山田清朝

調査の種類：確認調査 トレンチ番号：13～14



第3図 大崎遺跡 確認調査トレンチ配置図

調査期間：平成15年4月22日

調査面積：18㎡

第2次本発掘調査（遺跡調査番号：2003065）

経過：平成15年3月17日・18日と4月22日の結果を受けて、本発掘調査を実施したものである。

調査担当者：兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

調査第3班 森内秀造・仁尾一人

調査の種類：本発掘調査

調査期間：平成15年5月6日～平成15年5月9日

調査面積：120㎡

第2節 出土品整理事業

出土遺物などの整理作業は平成24年度から公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部において実施し、報告書刊行まで至った。なお整理作業を担当した整理技術嘱託員は以下のとおりである。

整理作業期間：平成24年4月1日～平成25年3月31日

水洗い・ネーミング：今村直子・小野調子・藤尾裕子・前田恵梨子

接合・復元：萩野麻衣・菅生真理子・吉田優子

実測：杉村明美・高瀬歌子・加藤裕美

図面補正・レイアウト・トレース作業：杉村明美・古谷章子

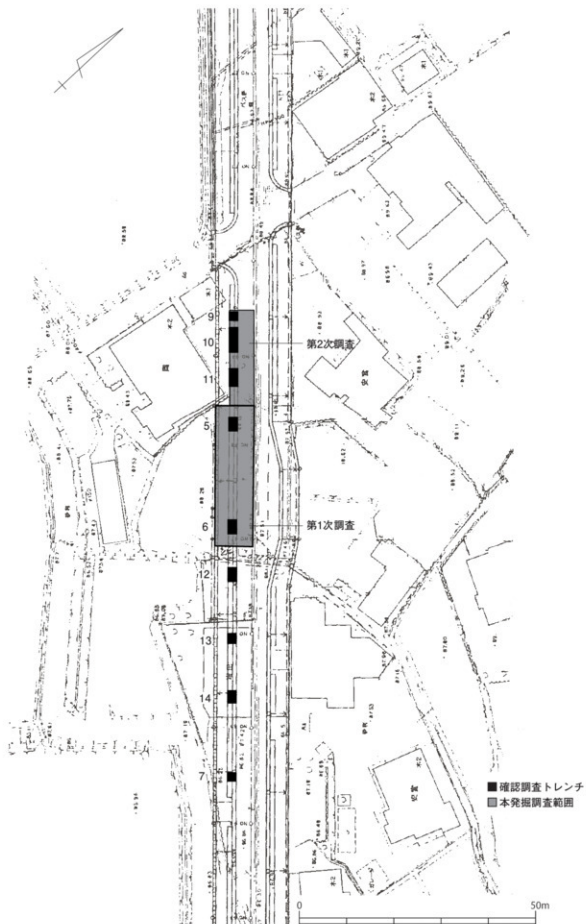
金属器保存処理：浜脇多規子・桂昭子



写真1 鳥居元遺跡 調査風景（1）



写真2 鳥居元遺跡 調査風景（2）



第4図 鳥居元遺跡 確認調査トレンチ配置図

第2章 遺跡の位置と環境

大崎遺跡・鳥居元遺跡は加西市畑町を南北に下る下里川東岸の扇状地上に所在する遺跡である。

遺跡が所在する畑町周辺地域は、寛喜3年(1231)鎌倉将軍家御教書案が初見となる須富荘の荘域にあたり、14～15世紀には、河原氏の活潑が伝わる。平成6年度から8年度にかけて県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査により、古墳時代から中世にかけて大きな遺跡群の所在が明らかになっている。

大崎遺跡

主要地方道三木穴栗線を扶んで南北に細長くのびる遺跡である。平成6年度と平成7年度に三木穴栗線を扶んで南と北でそれぞれ水路等の工事に伴う発掘調査が行なわれている。

平成6年度の調査区は、今回調査地の南側にあたり、2地区に分けて調査を実施している。第1区は、当該調査地の南側に隣接し、検出された奈良時代の溝、中世の掘立柱建物2棟・ピット群が検出されている。このうち、奈良時代の溝の延長部と掘立柱建物1棟の北梁行側の柱穴が当該調査区で検出されている。また第2地区では土坑4基、杭列2条が検出されている。その他、平成7年度の調査区では、掘



第5図 遺跡位置図

1/9,500

- 1.鳥居元遺跡 2.内垣内遺跡 3.大崎遺跡 4.倉狭間遺跡 5.上山遺跡 6.今善寺遺跡

* 『遺跡の発掘調査から見る 畑町の歴史』 1995年 加西市教育委員会から引用

立柱建物、道路状遺構とその側溝と思われる溝が発見されている。

鳥居元遺跡

城山の南側に立地し、南北に細長くのびる遺跡で、遺跡の時代は古墳時代後期、奈良時代、中世の3時期にわたる。平成6年度と平成7年度に主要地方道三木穴栗線を挟んで南と北でそれぞれ水路等の工事に伴う発掘調査が行なわれている。平成6年度に実施した8地区のうち5地区において掘立柱建物7棟、欄列、溝、土坑などが検出され、土坑の1つから大甕が出土している。また、平成7年度調査地区においても柱穴を検出している。

内垣内遺跡

大崎遺跡と鳥居元遺跡の間にある遺跡である。平成6年度の発掘調査で、1・2地区において掘立柱建物2棟や柱穴、土坑11基を検出した。3地区では多数の柱穴が検出され、総柱建物5棟が復元されている。このうち1棟は4×5間の規模で、庇を有する。

倉狭間遺跡

大崎遺跡の東側に位置する。平成7年度の調査で、6区のうち1区・2区・3区・6区で掘立柱建物・柱穴・溝・欄・土坑11基を検出している。掘立柱建物は多数の柱穴群のなから総柱建物1棟を含む6棟が復元されている。また、奈良時代の土器も出土している。また、土坑から12世紀代の白磁合子1点・白磁小壺1点・須恵器小皿3点がほぼ完形に近い状態で出土している。

上山遺跡

大崎遺跡の北側に位置し、畑町内の最も北寄りに位置する遺跡である。I区では多数の柱穴・土坑・溝などの遺構が検出されている。このうち土坑は南北長2.2m、東西長1.3mを測り、底面は被熱酸化し、約3cmの炭下層が堆積している。土坑内から10cm大の石に混じって中世須恵器碗が多数出土している。溝は東西方向に走り、埋土から中世須恵器碗の破片が出土している。II区では多数の柱穴が検出され、2×3間の建物跡1棟が復元されている。

今善寺遺跡

上山遺跡の東の山際に位置する。多数の土坑・柱穴・溝・石垣などの遺構が検出されている。土坑内から多数の礎が出土したが、遺物は含まれていない。土坑群の南辺には24m以上にわたる石垣およびその残骸部が延び、その西端はL字状に屈折している。類例遺構から幕城を画する近世の施設とも考えられている。

参考文献

- 鳥居元・大崎・倉狭間遺跡発掘調査実績報告書 1996年 加西市教育委員会
畑町遺物散布地理文化財発掘調査実績報告書 1995年 加西市教育委員会
大崎遺跡発掘調査実績報告書 1997年 加西市教育委員会
『遺跡の発掘調査から見る 畑町の歴史』 1995年 加西市教育委員会
『加西市史』第1巻 本編I 考古・古代・中世 2008年 加西市
『加西市史』第7巻 史料編I 考古 2010年 加西市

第3章 大崎遺跡の発掘調査

第1節 遺構（遺構図版1・2、遺構写真図版2）

調査の対象となった範囲は、主要県道三木穴栗線の南沿いにあたる。現在の道路に沿って、幅が予定されている部分である。途中、撤去できない農業用水路が存在するため、用水路から西側をⅠ区・東側をⅡ区として、地区を2つに分割して調査を進めた。また、遺跡範囲の広がりに伴いⅠ・Ⅱ区の本発掘調査終了後に発掘調査を実施しており、この地区をⅢ区と呼称する。

Ⅰ区（遺構図版2、遺構写真図版2）

調査区は東西に細長く、Ⅱ区と連なる東部は、調査前の建物基礎や水田造成に伴う地形改変の影響で大きく削平を受けている。水路を挟んでⅡ区と接する調査区東端でも30cmほど深く、さらに地形を大きく切り下げられていることがわかる。

調査区の基本層序は、1層：暗灰黄色礫混じりシルト／4層：ぶい黄褐色シルト質細砂／16層：明黄褐色シルト質細砂である。1層は旧耕土、4層は耕土に伴う床土である。16層は基盤層で、遺構は16層の上面から検出した。検出した遺構は、土坑・柱穴・ピットである。遺構群は東端と中央との2つの群に分かれて分布するが、かろうじて2×2間の小建物跡2棟（SB01・SB02）を復元することができた程度である。2棟とも後述するⅡ区SB03～SB07と方位を同じくし、南北方向を軸とする。柱間は1.1mの欄柱建物でSB02のいくつかの柱穴は攪乱等で亡失している。また調査区の西端では傾斜が下がるに従って遺構の数も少なく、出土遺物は須恵器・土師器・磁器などで、Ⅱ区と比べて細片化・磨滅化が進んでいる。遺構の時期はいずれも遺存状況が悪く、時期の決定が難しいが、出土遺物から、およそ13世紀後半から14世紀頃と推定される。

Ⅱ区・Ⅲ区（遺構図版1・3・4、遺構写真図版3）

調査区は東西に軸長い形状で、調査区は東から西に向かって緩やかな傾斜を持つが、後世の削平によって、細かい起伏が失われている。また水田造成に伴う段差が調査区の中央に認められる。調査区の基本層序は、段差を挟んだ東西で若干の違いを見せる。段差より西部は1層：暗灰黄色礫混じりシルト／4層：ぶい黄褐色シルト質細砂／16層：明黄褐色シルト質細砂で形成される。1層は旧耕土、4層は耕土に伴う床土と考えられる。16層は基盤層で、上面から遺構を検出した。遺物包含層は大半が失われ、基盤層も上部が削平を受けている。一方、段差より東部は2層：黒褐色礫混じりシルト、5層：褐色シルト、8層：灰黄褐色シルト質細砂、16層：明黄褐色シルト質細砂の4層からなる。1・4層はそれぞれ旧耕土と床土で、8層は遺物包含層である。調査区の北西部を中心に検出したが、局部的な遺存状況であった。16層は基盤層で、その上面から遺構を検出した。検出した遺構は、溝・土坑・柱穴・ピットである。出土遺物は須恵器・土師器で、遺構からの出土状況は、大半が調査区の東部で検出した溝（SD01）に集中している。

溝（SD01）（遺構図版4・5、遺構写真図版4・5）

Ⅱ区からⅢ区にかけて直線的に走る溝である。溝の延長部は平成6年度に加西市教育委員会が実施した園地整備事業に伴う発掘調査で検出されており、総延長は90mを測る。溝断面は半円形を呈

し、Ⅲ区とⅡ区境のb-b'断面での溝幅は2.10m、深さ約0.63m、底のレベル91.06mで、Ⅱ区a-a'断面では肩幅は3.0m、深さ0.64m、底のレベルは91.13mである。溝の肩幅は南西に向かうほど広がるが、溝の深さはほとんど同じである。溝内の堆積土は9層程度の層に分けることができる。

上層からは平安時代前期の遺物群、下層からは8世紀半ば前後の遺物群が出土しているが、土層断面記録はあらかじめ設定しておいた土層セクションでの断面観察記録を溝の完掘後に実施したもので、遺構図版5に示した土層の区分に従って遺物を取り上げているわけではない。従って、上層と下層の区分は明確ではないが、a-a'断面で第1層～第3層、b-b'断面で第1層～第3層が平安時代前期の遺物群の上層包含層、それより下層が8世紀半ば前後の時期の遺物群の包含層に対応するものと思われる。後述の通り、上層と下層の遺物群に時期の開きがあるが、溝そのものは奈良時代に開削され、浚渫を繰り返しながら平安時代前期まで存続したと思われる。なお、上層の遺物群に中世の遺物群（遺構図版2：201～211）が含まれているが、溝の堆積土にあった土坑あるいは溝の凹地となったところに混じり込んだ遺物群と考えられる。また、埋土の上面からは多数の柱穴を確認している。周辺で検出された柱穴群と同じ時期に形成されたもので、軟弱な地盤を反映して礎石や根がらみ石を内包するものが多い。

掘立柱建物（SB03・SB04・SB05）（遺構図版6～8）

調査区のほぼ全域において、120基以上の柱穴・ピットを検出したが、西側に密集する傾向があり、旧地形の高所を選んで建物を設けた状況が窺える。検出した柱穴・ピットは全体に浅く、一部では礎石や根がらみの石が露出していた。これは検出面が全体に削平を受けたことを示し、完全に亡失した柱穴がある可能性も高い。また、SD01の堆積土を切り込んで設けられた柱穴は、埋土が溝の堆積土と



写真3 大崎遺跡 調査風景

区分し難いので、検出できていないものも存在すると思われる。遺構図版3で図示したピット・柱穴にはいくつもの並び列があり、建物跡の復元を試みた。しかしながら、対応する梁行きや桁行が確認できず、復元を断念したものもあり、掘立柱建物として復元できたものは、3棟にとどまった。このうち、SB03は東西3間、南北3間以上の総柱建物で、SB05と方位を同じくする。柱間は1.5mである。SB05は加西市調査区と本調査区にまたがって検出されたもので、2間×3間の側柱建物である。本調査区では柱穴はSD01の堆積土を切り込んで設けられている。柱間は2.0mである。SB04は3間×4間の側柱建物である。柱穴が土坑によって失われ、一部の柱穴が正位置からややずれているが、建物跡として復元した。SB03およびSB05とは方位を異にする。柱間は1.0mである。時期については、柱穴内から出土した遺物の年代観から、建物は13世紀から14世紀頃と考えられる。

第2節 遺物

器種名については、まず、7～8世紀の伝統的器種の系譜を引くものについては、旧奈良国立文化財研究所の分類名称に従い、9世紀以降の瓷器系器種を中心とした新しい器種については「相生市・緑ヶ丘壙塚群」（兵庫県文化財調査報告第139冊）、「神出壙塚群Ⅲ」（兵庫県文化財調査報告第407冊）で使用した分類名称を用いる。また中世の遺物については「兵庫津遺跡Ⅱ」（兵庫県文化財調査報告第270冊）で使用した分類名称を用いた。

SD01上層出土遺物（101～212／遺物図版1・2、遺物写真図版1～3）

須恵器

椀C（101・102・104～111・114）

底部糸切りの平高台椀の一群である。

101・102・104は体部を欠く。底部内面に成形時の大きな段をもつ。底径は4.7cm～5.2cmである。107は口径15.1cmで底部を欠く。体部外面に成形時の段を多く残す。111は底径5.8cmを測る。高台の高さは0.6cmと高い。

105は平高台を消失した段階の椀で、体部は直線的に立ち上がる。口縁部周縁には重ね焼きによる黒色帯が残る。東播磨産の須恵器である。

106は口径16.3cm、底径5.4cm、109は口径16.1cm、底径5.7cmを測る。ともに湾曲する体部をもつが、体部外面には成形時の段が多く残る。平高台は体部から連続して続き、高台としての明瞭な区分をもたない。底部内面には段をもつ。109の口縁部周縁には重ね焼きによる黒色帯が残る。

108は口径15.6cm、110は口径16.0cm、底径はともに6.5cmを測る。高台の高さは0.5cmで、いずれも高台側面をヘラ状工具で整形し、体部と平高台の明瞭に区分する。底部内面には小さな段が認められる。口縁部はわずかに外反する。108の焼成は甘く、灰白色の土師質の焼き色である。110の内外面には、火襷が残り、白い砂粒を多く含む。

椀B（103・112）

いずれも底部はヘラ切りで、口縁部を欠く。103は高台の高さがほとんどないので、杯Aの可能性も考えたが、底径が7.0cmで、一般的な杯Aに比して小さいことと体部が斜めに立ち上がることから椀Bに分類した。112は底径8.0cmで、高台の高さは0.5cmである。体部との境をヘラで掻きとり、高台側面を仕上げた。

台付皿（113・115）

ヘラ切りの平高台をもつ台付皿である。113は口径14.9cm、底径7.1cm、高さ0.8cmのヘラ切りの平高台をもつ。高台側面をヘラ状工具で整形している。口縁部外縁にヘラ状工具で沈線を巡らしている。

115は113と同じく底径7.1cm、高さ0.8cmの平高台で、皿部を欠く。高台側面をヘラ状工具で整形している。

台付皿 (114)

体部の開き具合から糸切りの平高台をもつ台付皿と判断した。底径5.5cm。

壺 (116~119)

116は突帯付双耳壺の底部である。底径12.9cmを測る。外面には平行叩きをナデ消した痕跡を残す。底部周囲はヘラ削りを行い、体部と底部の接合痕跡を消す。底部は粘土円盤を原体としたもので、底部外面の周縁部には整形後にロクロからの切り離しに行なったヘラの回転痕跡とヘラ起しの痕跡を残す。

118は口径13.1cmの壺の口縁部である。倒卵形の体部をもつと思われる。焼成は甘く、灰白色の土師質の焼き色である。焼成・色調から117も同一の個体と思われる。

119は壺しの底部片である。体部はやや円みを帯び、外方に踏ん張る貼り付け高台を付す。また、底部外面には湿台痕跡と思われる粘土帯を残す。

鉢D (120)

「く」の字状に外反する径19.1cmの口縁部をもつ。体部は丸みをもつ。

甕 (121~122)

121は口径18.8cmの小型甕である。「く」の字状に外反する口縁部をもつ。口縁端面は平坦に仕上げている。体部外面は斜め方向にクロスする形で叩きを施し、内面は当て具痕を板状工具で縦方向にナデ消している。

122は「く」の字状に外反する口縁部をもち、肩の張りが小さい型甕である。口縁端面は平坦に仕上げている。体部外面に粗い叩きを施す。砂粒を多く含むのが特徴で、密窯で酸化炎焼成に近い状態で焼いた甕である。口径23.9cm。

片口鉢 (201)

口径29.5cm。口縁部断面が三角形を呈する。重ね焼きによる黒色帯が残る。

白磁

碗 (202・212)

202は口径15.1cm。口縁部は断面三角形を呈する。体部外面下半部は露胎である。Ⅳ類の白磁である。

瓦

平瓦 (203)

平瓦の小片である。外面は叩き整形、内面に布目の痕跡を残す。

土師器

小皿 (204・205)

204は灰白色を呈する手づくねによる皿である。口径8.6cm。

205は回転糸切りの底部をもつ小皿である。赤褐色を呈する。口径9.4cmを測る。

高杯 (206)

皿部、脚部ともに欠く。

鍋 (207)

口径18.0cmの小型鍋である。口縁はわずかに肥厚し、頸部外面を強くナデる。体部外面に粗い叩きの痕跡を残す。砂粒を多く含むが、全体に磨減が著しい。播丹型の鍋である。

鍋 (208)

口径22.5cmの長胴の鉄鍋形の鍋である。口縁直下に髷が取りつく。体部外面には縦方向のハケ目調整を行なう。外面に煤の付着痕跡を残す。

鍋 (209)

羽釜形の鍋である。髷部のみの破片で、全体的な形状は不明である。

瓦質土器

鍋 (210)

内外面黒色処理を施す。口径24.0cm。口縁部は内側に湾曲する。羽釜形の鍋である。

鍋 (211)

内外面黒色処理を施す鉄鍋形の鍋である。

SD01下層出土遺物 (301~410 / 遺物図版3・4、遺物写真図版4~6)

須恵器

杯B蓋 (301~307)

301・302・303はいずれも中心部のつまみを欠く。口縁部径は15.7cm~15.8cmを測る。天井部はいずれも回転ヘラ削りを施して仕上げている。301・302は扁平な笠形を呈するが、303は天井部が平坦でわずかに屈曲して口縁部に続く。

304~307は天井部のみで、口縁部を欠く。つまみは扁平な宝珠形を呈する。天井部は回転ヘラ削りを施す。305・306は天井部がやや丸みを帯びた笠形を呈する。

平蓋 (308)

扁平な平蓋である。天井部に一重の圈線を巡らす。加古川市の中谷4号窯に類例があり、金属器写しの特殊品であるが、口縁部が大きくひずんで反り上がり、天井部も挽んでいる。製品としては認定できない蓋である。天井部外面には別の器物（直径11cm）を置いて焼成した痕跡を残す。

杯B (309~314・316)

309・310・311は短く外方に踏ん張る高台を付す。底部外面はヘラ削り調整を行なう。309は口径10.5cm、310は口径14.5cmを測る。

312は口径18.3cm、器高5.2cmの深手の杯Bである。高台は底部周縁よりやや内側に貼り付けられている。底部外面はヘラ切り後ナデ調整により調整を行なう。

313は口径16.9cmを測る。高台は高さが低く幅が広いが、丁寧に整形されている。体部下半もヘラで丁寧に調整されている。

314は底部のみで体部を欠く。高台は高く、体部は高台際から湾曲して立ち上がる。底部外面はヘラ削り調整が行われている。稜輪の可能性はある。

316は口径15.6cm、器高8.8cmで体部は湾曲して立ち上がる。高台は小さくやや内側に傾くが、丁寧に作られている。

碗B (315)

口径15.2cm、器高6.4cmで体部は直線的に立ち上がる。底部周縁に短く外方に踏ん張る高台を付す。底

部外面に爪形圧痕を残す。

台付皿A (317)

皿部を欠く。径10.9cm、高さ1.9cmの高い輪高台を付す。底部内面はナデ調整を行う。加古川市志方窯跡群中に例があり、上部を欠くが、台付皿Aと断定した。

杯A (318-324)

口径は11.7cm～13.6cm。底部は324を除いていずれも回転ヘラ切り後にナデ調整を施す。底部と体部の境は丸みをもつものが多い。322は内面および外面に別破片が付着し、また、底部自体も大きく歪んでいる。明らかに製品ではなく、遺棄品である。

壺M (401)

口径3.0cm、器高10.0cmの小型の壺である。倒卵形の体部に短く直立する口頸部をもつ。口縁部はやや受け口状になっている。底部には短く踏ん張る高台をもつ。底部外面には×印のヘラ記号が刻まれている。

平瓶 (402)

口頸部および底部を欠くが、天井部には閉塞門板の痕跡を残しており、閉塞門板の位置から平瓶と断定した。天井部外面全体には自然釉がかかる。

壺K (403・405・407)

403は頸部に2条の圏線が上下2段に巡らされている。また、体部の稜線付近にも2条の圏線が巡らされている。

405は壺Kの底部であろう。高台は外方に高く踏ん張る。体部外面および中央部に降灰による自然釉の発色が見られる。

407は肩部から体部にかけての小片で、稜の下に2条の沈線を施し、間に列点文を施す。形態的にみて古墳時代にさかのぼる長頸壺であろう。

壺 (404)

この特徴と頸部の大きさからみて、広口の壺Qか短頸壺の可能性が高い。

壺A (406)

口縁部を欠くが、形態からみて短頸の可能性が高い。肩部に沈線を施す。底部は平底で、ヘラで丁寧に整形している。外面全体と底部内面に自然釉がかかる。

高杯 (408)

古墳時代の長脚2段3方透かしの高杯である。2条の沈線を巡らす。

甕 (409)

大きく外反する口頸部をもつ。口縁端部は内側につまみあげられている。端面はヘラ状工具で調整されている。体部内外面とも叩きおよび当て具の痕跡をきれいにナデ消している。口頸部と体部の接合部の剥離面をきれいにみることができ、体部の成形後に頸部を載せたことがわかる。口径36.3cm。

築破片 (410 / 遺物写真図版6)

体部外面に別破片が付着している。割れ口断面に再焼成を受けた箇所があり、自然釉の発色も見られる。明らかに焼成中に窯体内で製品が破損し、破片となったものであり、出来上りの製品そのものが破損したのではない。

土師器

杯A (325)

口径13.1cm、器高2.5cmを測る。比較的ていねいな作りで、内面に暗文が施されていた可能性もあるが、表面の磨減が著しく、確認できない。

ピット群出土遺物 (501~508/遺物図版5、遺物写真図版7)

須恵器

杯A (501)

ピット31埋土からの出土である。底部の切り離しは回転糸切りである。

小皿 (502)

ピット209埋土からの出土である。底部の切り離しは回転糸切りで、口縁部を欠くが、509~511と同形態の小皿である。

椀 (503)

ピット3埋土からの出土である。口径13.6cmで、口縁部が外反する。底部を欠くが、平高台をもつ椀である。

壺 (504)

ピット4埋土からの出土である。口縁端部と体部を欠くが、広口の壺Qであろう。

鍋 (505)

ピット2埋土からの出土である。破片であり、鍋全体の形態は不明である。播丹型の鍋である。

土師器

杯A (506)

ピット205からの出土である。磨減が著しく内外面の調整は不明である。

小皿 (507)

ピット210出土、灰白色を呈する手づくねによる土師器皿である。口径8.8cm。

鍋 (508)

ピット206からの出土であるが、小片であり、播丹型の鍋である。

包含層出土遺物 (509~517/遺物図版5、遺物写真図版7)

須恵器

小皿 (509~511)

口径7.8cm~7.9cm、底径4.7cm~6.4cm。底部の切り離しは回転糸切りである。

椀C (513・514)

513は口径16.2cm、底径7.1cm、514は口径15.6cm、底径5.9cmを測る。ともに体部は直線的に立ち上がり、底部には回転糸切り痕を残す。口縁部には重ね焼による黒色帯が残る。

壺 (515)

平底の壺底部である。底径21.6cm。体部外面は底部周辺に削り調整を行う。内面はヘラで調整している。体部には粘土帯を縦横に貼り付けている。

甕 (516)

口径19.8cmの甕である。「く」の字状に外反する口径部をもち、肩の張りが無い小型甕である。口径端面は平坦に仕上げる。体部外面に粗い叩きを施す。内面には同心円の当て具痕を残す。砂粒を多く含むのが特徴で、甕室で酸化炎焼成に近い状態で焼いた甕である。

白磁

小皿 (512)

口径9.8cm、底径4.8cm。体部は丸く立ち上がる。底部はヘラ削りを施し、露胎である。Ⅳ類の白磁である。

瓦 (517)

丸瓦の破片である。外面に叩きの痕跡を残す。

第3節 小結

今回の発掘調査により大崎遺跡は奈良時代から中世にかけて営まれた集落跡と位置づけられる成果が得られた。

検出された溝 (SD01) は奈良時代に開削されたもので、ほぼ直線の平面プランを描く。平成6年度に加西市教育委員会が実施圃場整備事業に伴う発掘調査以来、2度の調査で延長90mにおよぶことが判明した。ほぼ直線で東西に延びる平面形・整美な断面形・硬質な礫層を穿っている状況などから、人為的に開削されたことは明らかである。灌溉にもなう用排水路と考えられているが、多くの遺物が含まれていること、ほぼ平坦かつ直線的な形状など、注目すべき点も多い。SD01の埋土は上層・下層に分かれ、主として上層は平安時代前期、下層は奈良時代中期の遺物を包含している。下層の遺物は須恵器が大半で土師器がきわめて少ないのが特徴である。特に割れ歪んだもの (308)・融着した破片 (322)、割れ口断面に再焼成を受けた痕跡を残す破片 (410) など窯跡の灰原以外では見ることができない遺物が含まれている。周辺では須恵器窯跡の存在は確認されていない。溝の性格も含めて検討する必要がある。上層の遺物には14世紀代の遺物も包含しているが、大半は平安前期の遺物群である。14世紀代の遺物が含まれているのはSD01の埋没面がやや浅い窪地となっていたか、あるいは検出し得なかった土坑等の遺構からの出土の可能性が高い。なお、奈良時代後期から平安初期の遺物群がほとんど見当たらないが、恒常的に溝浚え等により遺物が失われた可能性もある。

調査区内からは多数のピット・柱穴が検出された。ピット内からの出土遺物は細片で、時期の特定が難しいが、遺物の表面観察結果では大半が中世に属するものである。ピット・柱穴群から建物跡として復元することができたのは7棟である。このうち、SB01の柱穴 (ピット206) 埋土から出土した遺物28は中世のもので、溝SD01の埋没面に建つSB05・07の建物の柱穴 (ピット16・32) の埋土に中世の遺物が含まれていることから・SB01・03・05は中世に属する建物と推定される。また、SB02・03・06も方位を同じくしているので、中世に属する建物と考えられるが、SB04についても他の建物群とは方位が異なるが、大きくは中世の時代の範疇の時期の建物の可能性が高い。

大崎遺跡は寛喜3年(1231)鎌倉御教書案が初見となる須富荘の荘園に含まれる。須富荘はその後河原氏の領地となる。当遺跡はその頃に合致する遺跡であり、すでに調査が行われている鳥居元遺跡、内垣内通路、倉狭間遺跡、上山遺跡、今善寺遺跡などの調査成果の総合的な検討により、中世須富荘の実態が鮮明になると思われる。

表1 大崎遺跡 出土土器一覧

報告番号	種別	器種	出土地区	出土遺構	法量 (cm)			残存			図版番号	写真図版番号
					口径	器高	底径	口径	底部	他		
101	須恵器	椀C	Ⅱ区	SD01上層	-	-	4.7	-	1/1	-	遺物図版1	遺物写真図版1
102	須恵器	椀C	Ⅱ区	SD01上層	-	-	5.2	-	-	1/1	遺物図版1	遺物写真図版1
103	須恵器	椀B	Ⅱ区	SD01上層	-	-	(7.0)	-	1/4	-	遺物図版1	遺物写真図版2
104	須恵器	椀C	Ⅱ区	SD01上層	-	-	4.7	-	3/4	-	遺物図版1	遺物写真図版1
105	須恵器	椀C	Ⅱ区	SD01上層	(15.8)	4.4	6.2	1/2	3/4	-	遺物図版1	遺物写真図版1
106	須恵器	椀C	Ⅱ区	SD01上層	(16.3)	5.7	5.4	1/4	1/1	-	遺物図版1	遺物写真図版1
107	須恵器	椀C	Ⅱ区	SD01上層	(15.1)	-	-	1/12	-	-	遺物図版1	遺物写真図版1
108	須恵器	椀C	Ⅱ区	SD01上層	(15.6)	6.0	(6.5)	1/9	7/10	-	遺物図版1	遺物写真図版1
109	須恵器	椀C	Ⅱ区	SD01上層	16.1	6.1	5.7	1/3	1/1	2/3	遺物図版1	遺物写真図版1
110	須恵器	椀C	Ⅱ区	SD01上層	(16.0)	5.8	(6.5)	1/3	1/2	-	遺物図版1	遺物写真図版1
111	須恵器	椀C	Ⅱ区	SD01上層	-	-	5.8	-	1/1	-	遺物図版1	遺物写真図版1
112	須恵器	椀B 直接執行 拡張部分	Ⅱ区	SD01上層	-	-	(8.0)	-	1/4	-	遺物図版1	遺物写真図版2
113	須恵器	台付皿	Ⅱ区	SD01上層	(14.9)	3.0	7.1	1/4	1/1	-	遺物図版1	遺物写真図版1
114	須恵器	椀C	Ⅱ区	SD01上層	-	-	5.5	-	1/1	-	遺物図版1	遺物写真図版1
115	須恵器	台付皿	Ⅱ区	SD01上層	-	-	7.1	-	1/1	-	遺物図版1	遺物写真図版2
116	須恵器	突帯付 双耳壺	Ⅱ区	SD01上層	-	-	(12.9)	-	1/4	-	遺物図版1	遺物写真図版2
117	須恵器	壺	Ⅱ区	SD01上層	-	-	(9.2)	1/12	-	-	遺物図版1	-
118	須恵器	壺	Ⅱ区	SD01上層	(13.1)	-	-	1/2弱	-	-	遺物図版1	遺物写真図版2
119	須恵器	壺L	Ⅱ区	SD01上層	-	(9.65)	(12.0)	-	1/4弱	-	遺物図版1	遺物写真図版2
120	須恵器	鉢D	Ⅱ区	SD01上層	(19.1)	-	-	1/12弱	-	-	遺物図版1	遺物写真図版2
121	須恵器	甕	Ⅱ区	SD01上層	(18.8)	-	-	1/2	-	肩部1/2	遺物図版1	遺物写真図版2
122	須恵器	壺	Ⅱ区	SD01上層	(23.9)	-	-	1/4弱	-	-	遺物図版1	遺物写真図版2
201	須恵器	片口鉢	Ⅱ区	SD01上層	(29.5)	-	-	小片	-	-	遺物図版2	遺物写真図版2
202	白磁	碗	Ⅱ区	SD01上層	(15.1)	(4.2)	-	1/6	-	-	遺物図版2	遺物写真図版2
203	瓦	平瓦	Ⅱ区	SD01上層	長さ (4.5)	幅 (5.8)	厚み 2.0	-	-	傾面小片	遺物図版2	遺物写真図版3
204	土師器	小皿	Ⅱ区	SD01上層	(8.6)	1.2	(6.4)	1/2	1/2	-	遺物図版2	遺物写真図版3
205	土師器	小皿	Ⅱ区	SD01上層	(9.4)	1.9	6.2	1/6	ほぼ 完存	-	遺物図版2	遺物写真図版3
206	土師器	高杯	Ⅱ区	SD01上層	-	-	-	-	-	脚柱部1/2	遺物図版2	遺物写真図版3
207	土師器	鍋	Ⅱ区	SD01上層	(18.0)	-	-	1/5	-	-	遺物図版2	遺物写真図版3
208	土師器	鍋	Ⅱ区	SD01上層	(22.5)	-	-	1/2	-	-	遺物図版2	遺物写真図版3
209	土師器	鍋	Ⅱ区	SD01上層	-	-	-	-	-	脚部若干	遺物図版2	遺物写真図版3
210	瓦質土器	鍋	Ⅱ区	SD01上層	(24.0)	-	-	小片	-	-	遺物図版2	遺物写真図版3
211	瓦質土器	鍋	Ⅱ区	SD01上層	-	-	-	1/4弱 端部欠損	-	-	遺物図版2	遺物写真図版3
212	白磁	碗	Ⅱ区	SD01上層	-	-	-	-	-	体部片若干	-	遺物写真図版2
301	須恵器	杯B蓋	Ⅱ区	SD01下層	(15.7)	-	-	1/2	-	-	遺物図版3	遺物写真図版4
302	須恵器	杯B蓋	Ⅱ区	SD01下層	(14.7)	-	-	1/6	-	天井部1/6	遺物図版3	遺物写真図版4
303	須恵器	杯B蓋	Ⅱ区	SD01下層	(15.8)	-	天井径 (9.3)	口縁部 のみ	-	口縁部小片	遺物図版3	遺物写真図版4
304	須恵器	杯B蓋	Ⅱ区	SD01下層	-	-	-	-	-	つまみ完存	遺物図版3	遺物写真図版4
305	須恵器	杯B蓋	Ⅱ区	SD01下層	つみみ径 (2.8)	-	-	-	-	口縁欠損	遺物図版3	遺物写真図版4
306	須恵器	杯B蓋	Ⅱ区	SD01下層	つみみ径 2.6	-	-	-	-	つまみ1/2 天井部1/1	遺物図版3	遺物写真図版4
307	須恵器	杯B蓋	Ⅱ区	SD01下層	-	-	-	-	-	つまみ5/6, 天井部4/9	遺物図版3	遺物写真図版4
308	須恵器	平蓋	Ⅱ区	SD01下層	(15.4)	(1.3)	-	1/2	-	つまみ1/2 天井部2/3	遺物図版3	遺物写真図版4
309	須恵器	杯B	Ⅱ区	SD01下層	(10.5)	3.6	(10.6)	1/5	1/1	-	遺物図版3	遺物写真図版4
310	須恵器	杯B 直接執行 拡張部分	Ⅱ区	SD01下層	(14.5)	3.8	11.2	1/8	1/2	-	遺物図版3	-

報告 番号	種別	器種	出土 地区	出土 遺構	法量 (cm)		残存			図版番号	写真図版 番号		
					口径	器高	口径	底部	他				
311	須恵器	杯B	Ⅱ区	SD01下層	-	-	(103)	-	4/5	-	遺物図版3	遺物写真図版5	
312	須恵器	杯B	Ⅱ区	SD01下層	(18.3)	5.2	11.0	若干	3/4	-	遺物図版3	遺物写真図版4	
313	須恵器	杯B	Ⅱ区	SD01下層	(16.9)	(4.25)	(116)	1/18	1/6	-	遺物図版3	遺物写真図版5	
314	須恵器	杯B	Ⅱ区	SD01下層	-	-	-	-	1/4	-	遺物図版3	-	
315	須恵器	椀B	Ⅱ区	SD01下層	(15.2)	6.4	(9.8)	1/9	1/4	-	遺物図版3	遺物写真図版5	
316	須恵器	杯B	直接執行 拡張部分	SD01下層	(15.6)	5.7	(8.8)	1/6	2/9	-	遺物図版3	遺物写真図版5	
317	須恵器	台付皿	Ⅱ区	SD01下層	-	-	(109)	-	1/3	-	遺物図版3	遺物写真図版5	
318	須恵器	杯A	Ⅱ区	SD01下層	(11.7)	3.4	(7.7)	1/9	1/9	肩部1/9	-	遺物図版3	-
319	須恵器	杯A	Ⅱ区	SD01下層	(13.6)	2.9	(105)	1/18	1/5弱	-	遺物図版3	-	
320	須恵器	杯A	Ⅱ区	SD01下層	13.6	4.4	9.0	4/9	1/1	-	遺物図版3	遺物写真図版5	
321	須恵器	杯A	Ⅱ区	SD01下層	(13.6)	(4.5)	9.4	1/4	1/1	天井部1/1	-	遺物図版3	遺物写真図版5
322	須恵器	杯A	Ⅱ区	SD01下層	-	-	-	-	1/3	-	遺物図版3	遺物写真図版5	
323	須恵器	杯A	Ⅱ区	SD01下層	-	-	(8.0)	-	3/4	-	遺物図版3	遺物写真図版5	
324	須恵器	杯A	Ⅱ区	SD01下層	-	-	9.0	-	2/7	-	遺物図版3	遺物写真図版5	
325	土師器	杯A	Ⅱ区	SD01下層	(13.1)	2.5	(108)	1/3	3/4	-	遺物図版3	遺物写真図版5	
401	須恵器	壺M	Ⅱ区	SD01下層	3.0	(100)	4.7	2/3	1/1	肩部2/3	-	遺物図版4	遺物写真図版6
402	須恵器	平椀	直接執行 拡張部分	SD01下層	最大径 (16.6)	-	-	-	-	肩部上半 1/4	-	遺物図版4	-
403	須恵器	壺K	Ⅱ区	SD01下層	-	-	-	-	-	肩部1/4弱、 肩部1/4強	-	遺物図版4	遺物写真図版6
404	須恵器	壺Q?	Ⅱ区	SD01下層	-	(4.2)	(18.0)	-	-	肩部小片	-	遺物図版4	-
405	須恵器	壺K	Ⅱ区	SD01下層	-	-	9.4	-	1/1	-	-	遺物図版4	-
406	須恵器	壺A	Ⅱ区	SD01下層	-	-	(9.0)	-	-	2/3	-	遺物図版4	遺物写真図版6
407	須恵器	壺K	直接執行 拡張部分	SD01下層	直径 (16.6)	-	-	-	-	肩部小片	-	遺物図版4	-
408	須恵器	高杯	Ⅱ区	SD01下層	-	-	-	1/2	-	-	-	遺物図版4	-
409	須恵器	壺	Ⅱ区	SD01下層	(36.3)	(166)	-	1/8	-	肩部1/4	-	遺物図版4	遺物写真図版6
410	須恵器	壺	Ⅱ区	SD01下層	-	-	-	-	-	肩部片	-	遺物写真図版6	-
501	須恵器	杯A	Ⅱ区	ビツ31	-	-	(7.9)	1/10	-	-	-	遺物図版5	遺物写真図版7
502	須恵器	小皿	I区	ビツ209	-	-	-	-	1/4	-	-	遺物図版5	遺物写真図版7
503	須恵器	椀	Ⅱ区	ビツ3	(13.6)	-	-	1/6	-	-	-	遺物図版5	遺物写真図版7
504	須恵器	壺Q	Ⅱ区	ビツ4	-	-	-	-	-	肩部1/5	-	遺物図版5	遺物写真図版7
505	須恵器	鍋	Ⅱ区	ビツ2	-	-	-	-	-	肩部小片	-	遺物図版5	-
506	土師器	杯A	I区	ビツ205	-	-	(7.6)	-	-	-	-	遺物図版5	遺物写真図版7
507	須恵器	小皿	I区	ビツ210	(8.8)	-	1.3	1/12	-	-	-	遺物図版5	遺物写真図版7
508	土師器	鍋	I区	ビツ206	(17.4)	-	-	1/12	-	-	-	遺物図版5	遺物写真図版7
509	須恵器	小皿	Ⅱ区	包含層	7.9	1.6	6.4	-	-	-	成形	遺物図版5	遺物写真図版7
510	須恵器	小皿	Ⅱ区	包含層	(7.9)	1.4	-	1/2弱	1/2弱	やや不良	-	遺物図版5	遺物写真図版7
511	須恵器	小皿	Ⅱ区	包含層	(7.8)	1.3	(6.3)	1/3	1/3	-	-	遺物図版5	遺物写真図版7
512	白磁	小皿	Ⅱ区	包含層	(9.8)	2.1	4.8	1/5	1/1	-	-	遺物図版5	遺物写真図版7
513	須恵器	椀C	Ⅱ区	包含層	(16.2)	4.9	7.1	1/4	1/1	共存	-	遺物図版5	遺物写真図版7
514	須恵器	椀C	Ⅱ区	包含層	(15.6)	4.6	5.9	1/12	3/5	-	-	遺物図版5	-
515	須恵器	壺	Ⅱ区	包含層 上層	-	-	(216)	-	1/15	-	-	遺物図版5	遺物写真図版7
516	須恵器	壺	Ⅱ区	包含層	(19.8)	-	-	1/5弱	-	-	-	遺物図版5	遺物写真図版7
517	瓦	丸瓦	Ⅱ区	包含層 上層	長さ (4.6)	-	-	-	-	-	尻部若干残	遺物図版5	遺物写真図版7

第4章 鳥居元遺跡の発掘調査

第1節 遺構（遺構図版10・11・14 遺構写真図版6・8）

遺構面は1面で、現地表面下1mの深さから検出した。部分的に土坑状の擾乱が存在する。調査区の基本層序は、1層：暗灰黄色礫混じりシルト質細砂、10層：オリープ褐色砂礫、14層：褐色シルト、23層：遺構検出面である。1層が水田層、10層が客土で、14層は水田土壌層の特徴を持ち、若干の遺物を包含していた。遺構を検出した23層の基盤層は、調査区の東端付近がにぶい黄褐色礫混じり細砂で、調査区中央付近で消失し、さらに下層の堆積であるにぶい黄褐色砂礫に変質する。そして調査区西端で深度を下げ、上層に明黄褐色シルト質細砂～細砂が堆積する。この基盤層から検出した遺構は、竪穴住居・溝・土坑・柱穴・ピットで、複数時期の遺構が同一面で検出された。また出土遺物には、須恵器・土師器・金属器などがある。

竪穴住居址（SH01）（遺構図版12・13、遺構写真図版7）

調査区の東部で検出した。方形の住居址で、東周壁が調査区外へと続き、南東隅が後世の遺構によって消滅する。住居址の規模は南周壁溝の長さから推定して、一辺5.5mと考えられる。住居の埋土に多量の炭化材が含まれていた。湧水の影響を受けて状態はよくないが、床面付近では屋根の梁・桁の様子がある程度判別できた。なお、炭化材の下から遺存状態のよい遺物が出土している。周壁は明瞭に検出することができなかったが、周壁溝を1条検出している。また、床面上において検出した屋内施設として、カマドと主柱穴3基がある。カマドは盛り土によって構築され、基部のみが遺存する。袖は焼成部から焚口に向かって「ハ」字状に開き、焼成部ならびに袖は大きく赤化する。焼成部からは、須恵器杯身ならびに破片化した土師器が出土した。なお、煙道部は削平により失われていた。主柱穴は3基検出した。いずれも直径0.3～0.6m前後、深さ0.3～0.4m前後の円形掘り方を持ち、南西隅の柱穴では炭化した柱根がわずかに遺存していた。また南西柱穴の掘り方直上では、須恵器の杯蓋（602）が裏向きに置かれた状態で出土している。このほか、床面から合わせ口の状態で検出した杯（蓋601・身603のセット）や、鉄製の鎌と見られる金属器などが出土している。遺物の特徴から、7世紀中頃に使われていた住居址であろう。

土坑（SK01）・柱穴・ピット（遺構図版10・11・14、遺構写真図版6・8）

柱穴・ピットは、調査区の西部に集中して検出され、中世の掘立柱建物1棟と、土坑（SK01）を1基検出した。検出した掘立柱建物は一部が調査区外にあり規模は不明であるが、2×2間以上の建物で、柱間は2.0mである。土坑（SK01）の内部からは、円礫の集積と遺物の存在を確認した。出土遺物には13世紀後半から14世紀代の所産と考えられる銅などがあったが、性格を考究するにはいたらなかった。また、調査区の東端付近では、北東から南西方向へ流れる溝を2条検出した。いずれも住居址の埋没後に形成されたもので、不規則な平面形をなす。短い期間に稼動した、小規模な自然流路と考えられる。

第2節 遺物

竪穴住居址 (SH01) 出土遺物 (601～607/遺物図版6、遺物写真図版8)

須恵器

杯皿 (601～604)

601・602はともに杯皿の蓋で、天井部外面はヘラ切り後のナデのみでヘラ削りは省略している。601は口径12.3cm、602は口径13.0cm。603・604は杯皿身である。立ち上がりの高さ0.5cmと低く、底部外面はヘラ切り後のナデのみでヘラ削りは省略している。

土師器

甕 (605～607)

605は口径15.0cm、器高14.6cm。磨減が著しく、全体の調整は不明であるが、内外面ともハケ目調整を行なう。606は底部を欠く。口径13.6cm。口頭部がほぼ直上方向に立ち上がり、体部の最大径は下半部にある。体部外面は上部が縦方向のハケ調整、下部が斜め方向のハケ目調整、内面は口頭部がハケ調整、体部が斜め方向のヘラ削り調整を行なう。607は体部から「く」の字状に外反する口縁部で、肩は張らず長胴をなすものと思われる。内外面とも磨減のため調整は不明である。

ピット群出土遺物 (608～615/遺物図版6、遺物写真図版9)

須恵器

椀 (609)

ピット10出土。口径14.5cmの椀の口縁部片である。糸切りの平高台の底部を有するものと思われる。

土師器

小皿 (608)

ピット10出土。口径9.7cm。手づくねにより成形されており、体部外面に指押さえの痕が残る。

鍋 (610)

ピット10出土。口径22.5cm。頭部はほぼ水平に立ち上がり、端部を上方につまみ上げる。鉄鍋形の鍋である。

鍋 (611)

ピット39出土。口径19.2cmの長胴の羽釜形の鍋である。口縁直下に罫が取りつく。体部外面には縦方向のハケ目調整を行なう。

鍋 (612)

ピット1出土。口径26.5cmの鍋である。口縁直下に罫が取りつく。体部外面には粗い叩き痕を残す。割れ口断面に煤が付しており、使用中に破損したものであろう。羽釜形の鍋である。

椀 (613～615)

613・614はピット16、615はピット45からの出土である。口径14.2cm～18.2cmの椀で、外面に火櫛の痕を残す。

落ち込み出土遺物 (616/遺物図版6、遺物写真図版9)

須恵器

片口鉢 (616)

落ち込み出土、口径28.9cm。口縁部が丸く肥厚する。

SK01出土遺物 (617/遺物図版6、遺物写真図版9)

土師質

鍋 (617)

口径20.9cm。口頸部は直立し、口縁端部を外側に引き出す。体部外面には粗い叩きを施す。播丹形の鍋である。

包含層出土遺物 (701~708/遺物図版7、遺物写真図版9)

鍋 (701~704)

701・702は須恵質、703・704は土師質。701は口径25.5cm。口頸部は直立し、頸部の強いナデにより口縁端部を外方に突出させる。体部外面には粗い叩きを施す。内面はハケ目痕を残す。701~703は播丹型、704は鉄鍋形の鍋である。

須恵器

輪高台をもつ壺底部 (706)、回転糸切りの平高台をもつ椀 (707)、壺 (708)、断面三角形の口縁部をもつ片口鉢 (705) が出土している。

鉄器 (遺物図版7、遺物写真図版8、M1~M3)

釘 (M1・M2)

M1・M2は和釘で、M1は住居址の埋土から出土し、現存長2.6cm。頭部を欠損しているため形態は不明である。M2はビット30から出土したもので、現存長が6.8cmである。頭部はほぼ一辺1cmの正方形をなし、厚みは0.6cmを測る。頭部の形態から飾り釘と考えられるが、詳細な時期は不明である。

鎌 (M3)

M3は刃部が内側に湾曲する曲刃鎌である。SH01に伴うもので、全長は18.6cm。刃部は長くカーブはゆるやかで、基部端の辺全体を直角に折り返すタイプである。

第3節 小結

今回の調査では古墳時代後期と中世の集落遺構が検出されている。古墳時代の遺構としては、堅穴住居址SH01がある。平成6年度の加西市教育委員会が実施した発掘調査では、古墳時代の遺構・土器が発見されているが、住居跡は発見されていなかった。今回の発掘調査により古墳時代の集落の存在が明らかになったことになる。SH01出土須恵器杯は小型化した杯Hとしては最終段階のもので、7世紀代中ごろのものだと判断できる。

中世の遺構としては多数のビット・柱穴が検出されているが、残存状況が悪く、建物として復元できたのは1棟だけである。出土遺物は、13世紀後半から14世紀代の鍋類が中心である。大崎遺跡と同じく、当該遺跡も中世の須富荘の荘域に含まれており、時期的に見て河原氏の活躍する14世紀代の集落の一角と考えてよい。

表2 鳥居元遺跡 出土土器一覧

報告 番号	種別	器種	出土 地区	出土 遺構	法量 (cm)							残存			図原番号	写真図原 番号
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	口縁	底	他			
601	須志器	杯H	Ⅰ区	SH01	12.3	3.4	-	-	-	-	ほぼ完存	-	-	遺物図版6	遺物写真図版8	
602	須志器	杯H	Ⅰ区	SH01	13.0	4.1	-	-	-	-	1/2強	1/2強	-	遺物図版6	遺物写真図版8	
603	須志器	杯H	Ⅰ区	SH01	10.7	3.6	6.75	-	-	-	17/18	完存	-	遺物図版6	遺物写真図版8	
604	須志器	杯H	Ⅰ区	SH01	11.7	4.0	-	-	-	-	肩部若干欠損	-	-	遺物図版6	遺物写真図版8	
605	土師器	甕	Ⅰ区	SH01	(15.0)	-	腹径 (14.6)	-	-	-	1/2	1/2	-	遺物図版6	遺物写真図版8	
606	土師器	甕	Ⅰ区	SH01	(13.6)	-	腹径 (15.1)	-	-	-	1/3	-	胴~体 4.9	遺物図版6	遺物写真図版8	
607	土師器	甕	Ⅰ区	SH01	(13.7)	-	腹径 (14.8)	-	-	-	1/5強	-	-	遺物図版6	遺物写真図版8	
608	土師器	小皿	Ⅰ区	ビツ10	(9.7)	2.4	-	-	-	-	1/6	-	-	遺物図版6	遺物写真図版9	
609	須志器	椀	Ⅱ区	ビツ15	(14.6)	-	-	-	-	-	小片	-	-	遺物図版6	遺物写真図版9	
610	土師器	鍋	Ⅱ区	ビツ12	(22.5)	-	-	-	-	-	1.9弱	-	-	遺物図版6	遺物写真図版9	
611	土師器	鍋	Ⅱ区	ビツ30	(19.2)	-	-	-	-	-	小片	-	-	遺物図版6	遺物写真図版9	
612	土師器	鍋	Ⅰ区	ビツ1	(26.5)	-	-	-	-	-	1/2	-	-	遺物図版6	遺物写真図版9	
613	須志器	椀	Ⅱ区	ビツ16	(16.5)	-	-	-	-	-	1/16	-	-	遺物図版6	遺物写真図版9	
614	須志器	椀	Ⅱ区	ビツ16	(18.2)	-	-	-	-	-	1/2	-	-	遺物図版6	遺物写真図版9	
615	須志器	椀	Ⅱ区	ビツ45	(14.0)	-	-	-	-	-	1/10	-	-	遺物図版6	遺物写真図版9	
616	須志器	片口鉢	Ⅱ区	葛志志	(28.9)	-	-	-	-	-	小片	-	-	遺物図版6	遺物写真図版9	
617	土師質	鍋	Ⅰ区	SK01	(20.9)	(4.9)	-	-	-	-	1/3	-	-	遺物図版6	遺物写真図版9	
701	須志質	鍋	Ⅰ区	包含層	(25.5)	-	腹径 (31.05)	-	-	-	1/4弱	-	-	遺物図版7	遺物写真図版9	
702	須志質	鍋	Ⅰ区	包含層	(21.4)	-	-	-	-	-	1/4弱	-	-	遺物図版7	遺物写真図版9	
703	土師質	鍋	Ⅰ区	包含層	(18.0)	(3.95)	-	-	-	-	1/2	-	-	遺物図版7	遺物写真図版9	
704	土師器	鍋	Ⅰ区	包含層	(16.4)	(3.6)	-	-	-	-	小片	-	-	遺物図版7	遺物写真図版9	
705	須志器	片口鉢	Ⅰ区	包含層	(29.8)	(3.0)	-	-	-	-	1/18	-	-	遺物図版7	遺物写真図版9	
706	須志器	壺	Ⅰ区	包含層	-	(5.8)	(9.2)	-	-	-	1/6	-	-	遺物図版7	遺物写真図版9	
707	須志器	椀	Ⅱ区	包含層	-	-	(6.0)	-	-	-	-	1/9	-	遺物図版7	遺物写真図版9	
708	須志器	甕	Ⅰ区	包含層	-	-	-	-	-	-	1/36	-	-	遺物図版7	遺物写真図版9	

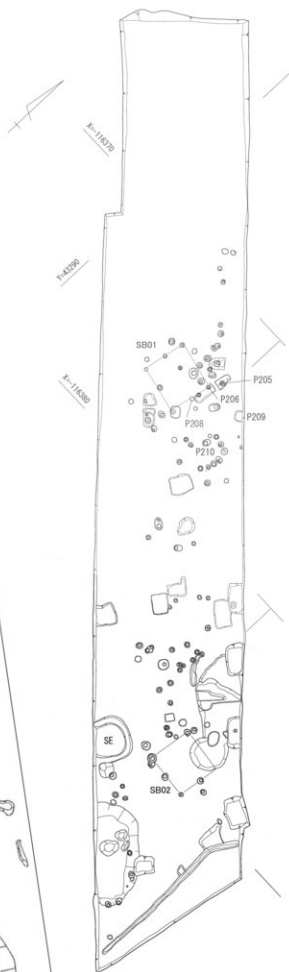
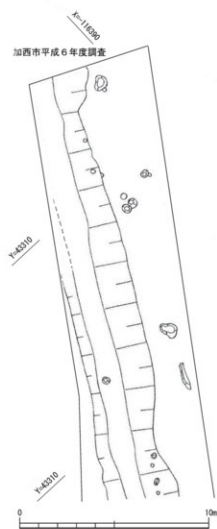
表3 鳥居元遺跡 出土鉄器一覧

報告 番号	種別	器種	出土 地区	出土 遺構	法量 (cm)					残存			図原番号	写真図原 番号	
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み	口縁	底			他
M1	鉄製品	釘	Ⅰ区	SH01	-	-	-	長さ (2.6)	幅 (0.5)	厚み (0.45)	-	-	先端残	遺物図版7	遺物写真図版8
M2	鉄製品	釘	Ⅱ区	ビツ30	-	-	-	(6.8)	1.1	0.6	-	-	先端欠	遺物図版7	遺物写真図版8
M3	鉄製品	鎌	Ⅰ区	SH01	-	-	-	18.6	3.0	0.35	-	-	完存	遺物図版7	遺物写真図版8

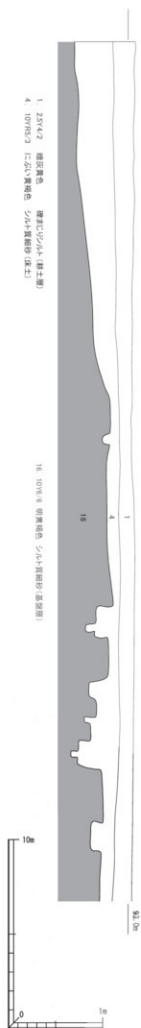
圖 版



大崎遺跡 全体図



大崎遺跡 I区全体図



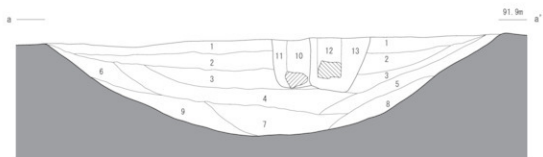
遺構図版 3



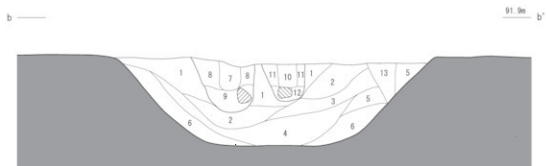
大崎遺跡 II区上層全体図

遺構図版4

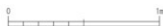




- | | | | |
|-----|----------|--------|------------|
| 1. | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト質細砂 |
| 2. | 10YR6/4 | にぶい黄褐色 | 細砂(含マンガ) |
| 3. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト |
| 4. | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | シルトまじり細砂 |
| 5. | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | シルト質細砂→シルト |
| 6. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質細砂 |
| 7. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 細～中砂 |
| 8. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト |
| 9. | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | シルト |
| 10. | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | シルト |
| 11. | 7.5YR4/3 | 褐色 | シルト質細砂 |
| 12. | 7.5YR2/3 | 暗褐色 | シルト |
| 13. | 7.5YR6/6 | 橙 | シルト質細砂 |

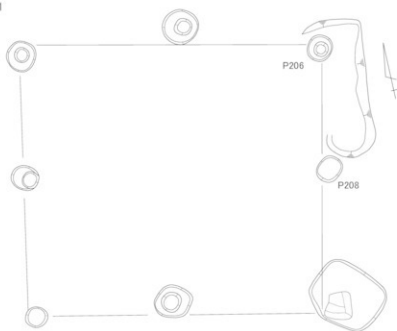


- | | | | |
|-----|---------|--------|----------|
| 1. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 細砂 |
| 2. | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | シルトまじり細砂 |
| 3. | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 細砂 |
| 4. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 細～中砂 |
| 5. | 10YR2/2 | 黒褐色 | 細砂(含マンガ) |
| 6. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト質細砂 |
| 7. | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト |
| 8. | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 細砂 |
| 9. | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト質細砂 |
| 10. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト |
| 11. | 10YR4/1 | 褐色 | シルト質細砂 |
| 12. | 10YR2/3 | 暗褐色 | シルト |
| 13. | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 細砂→シルト |

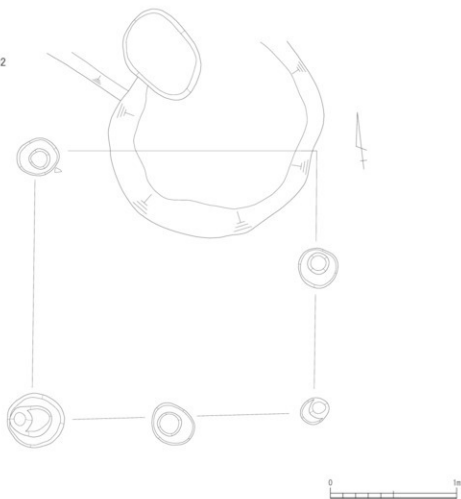


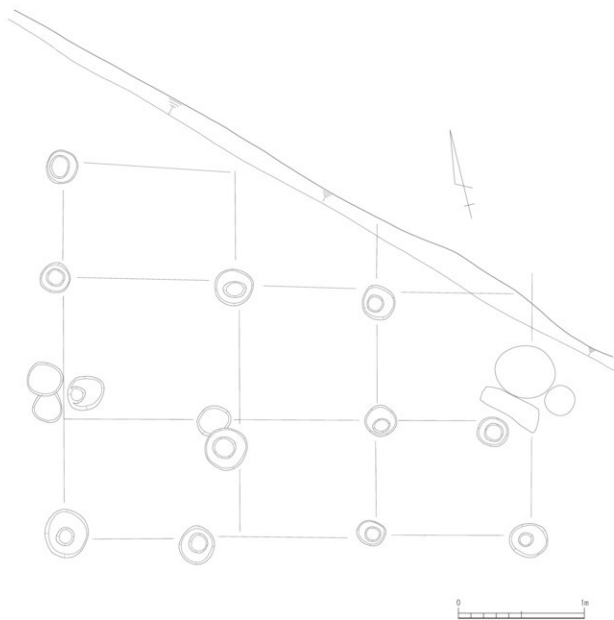
遺構図版 6

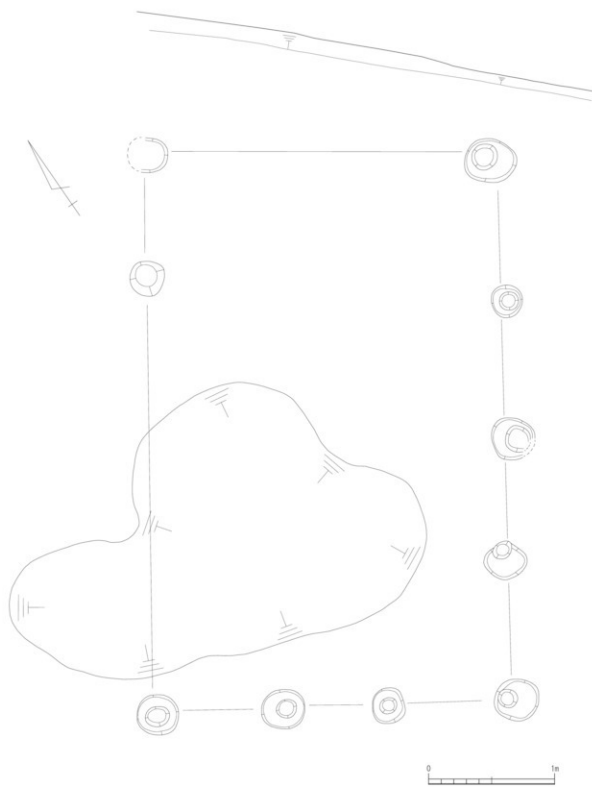
SB01

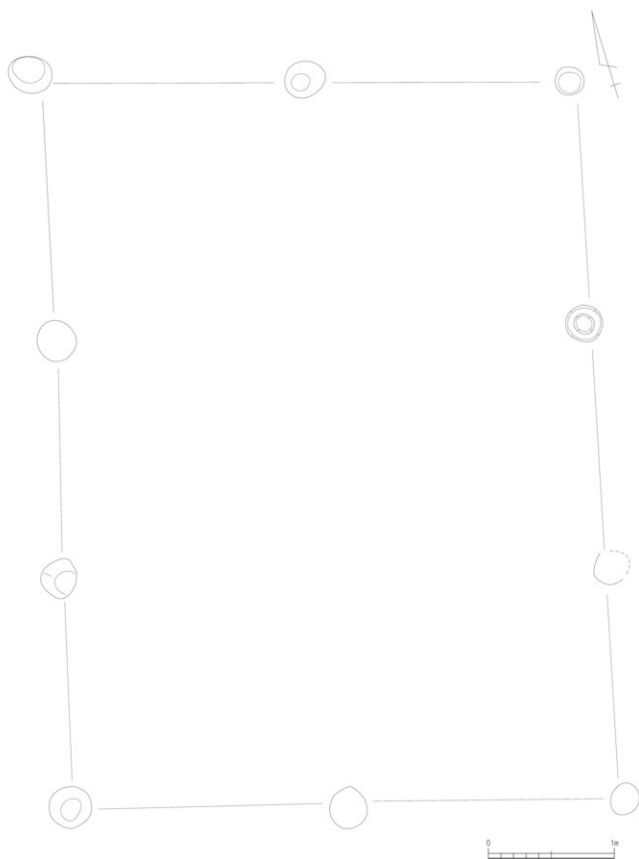


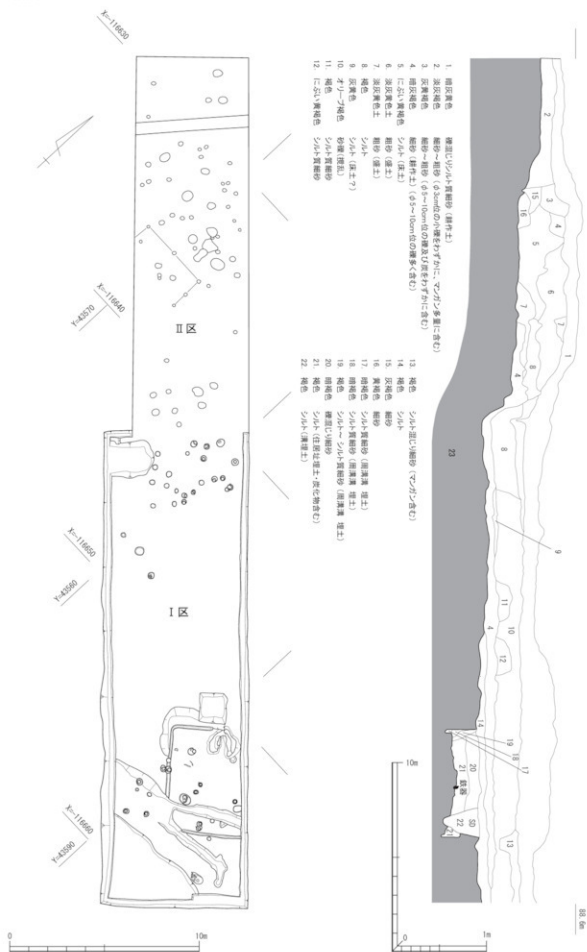
SB02



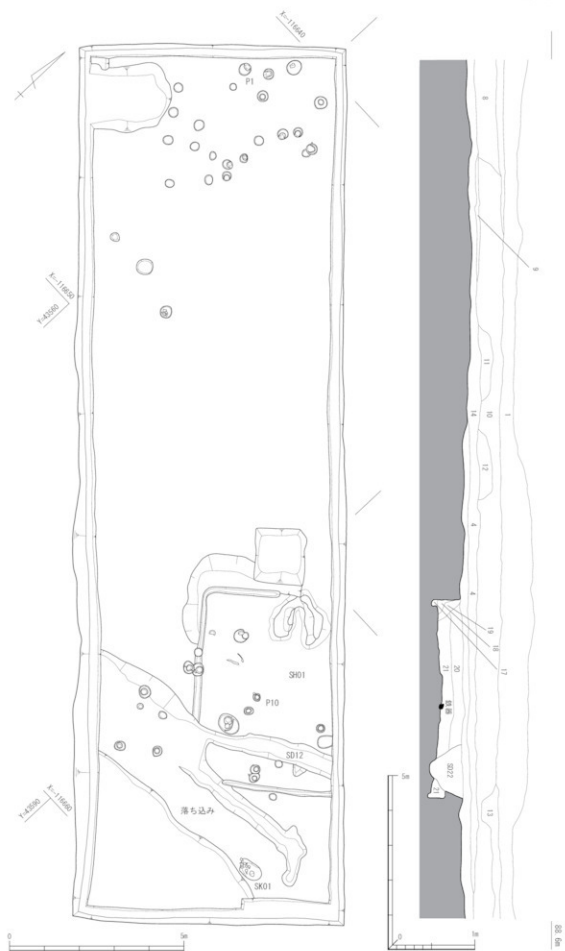




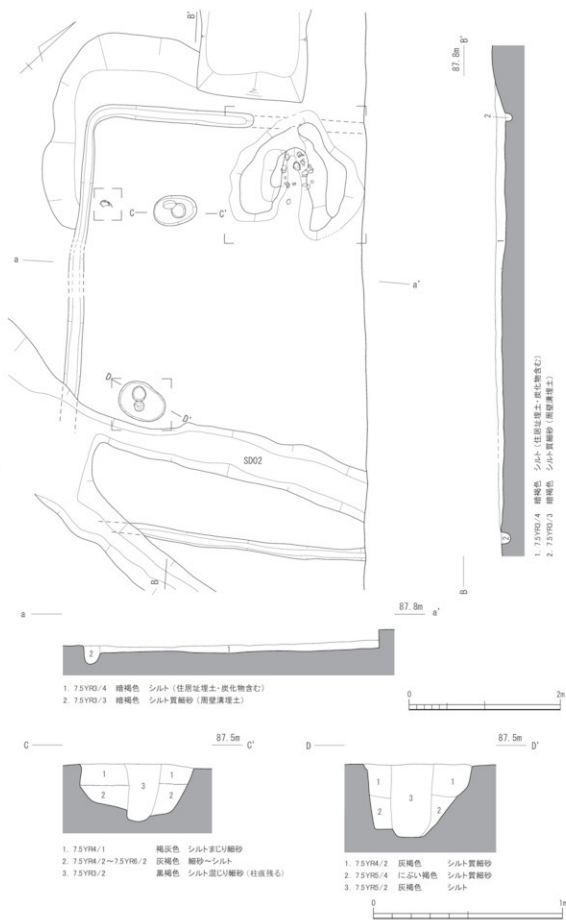


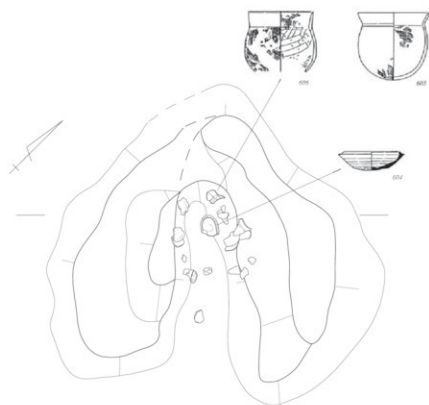
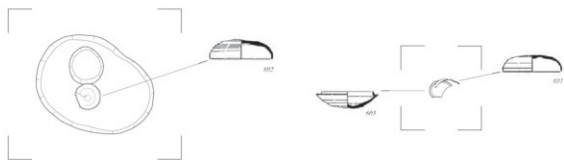


鳥居元遺跡 全体図

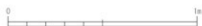


鳥居元遺跡 I区全体図





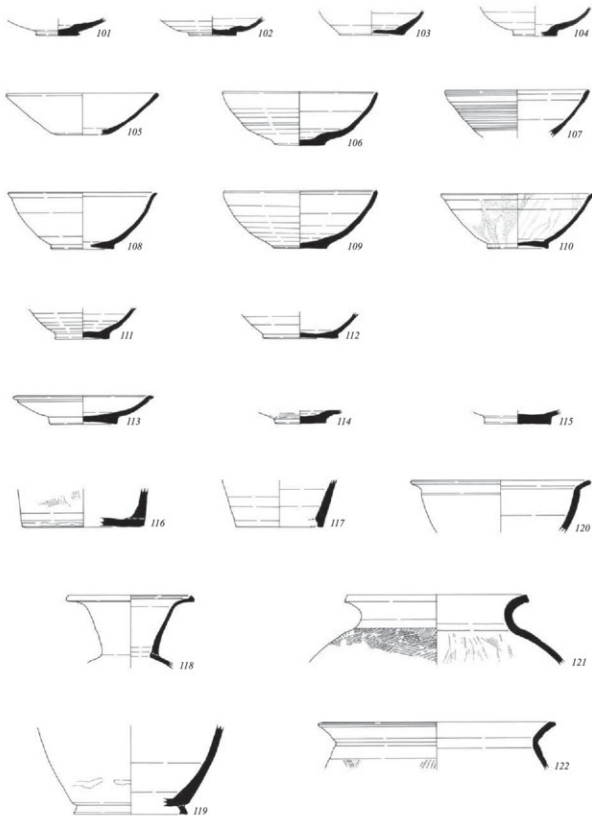
- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 10YR5/2 黄褐色 | 細砂(シルトまじり、炭灰土を含む) |
| 2. 5YR4/4 にぶい赤褐色 | 細砂(焼土、赤化) |
| 3. 10YR3/4 暗褐色 | 極細砂(焼土、赤化) |
| 4. 10YR2/3 黄褐色 | 細砂(炭・焼土を多く含む) |
| 5. 10YR3/3 黄褐色 | 細砂(炭・焼土を含む) |



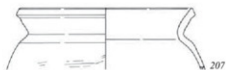
鳥居元遺跡 I区SH01 カマド



鳥居元遺跡 II区全体図



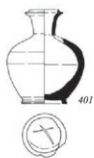
遺物図版 2





大崎遺跡 II区SD01下層出土土器(1)

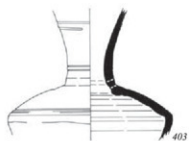
遺物図版 4



401



402



403



408



404



405



406



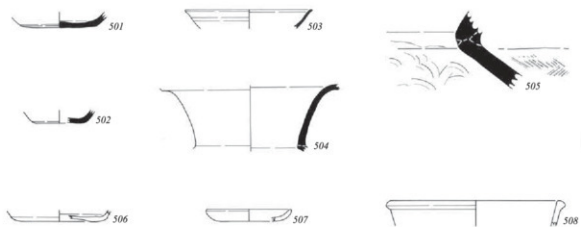
407



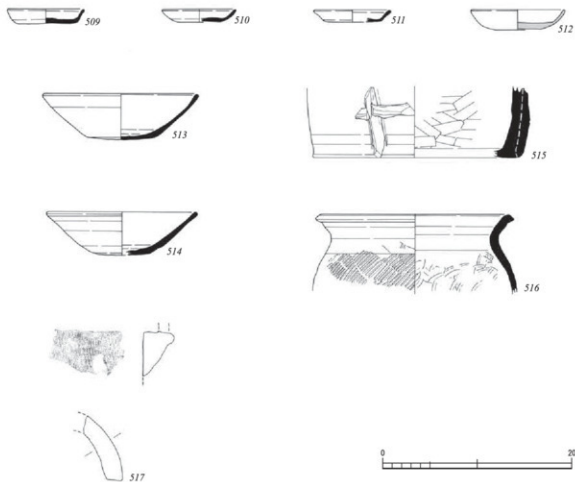
409



I・II区ビット群



包含層



遺物図版 6

SH01



601



602



603



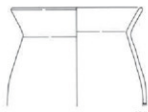
604



605



606



607

ビット群



608



609



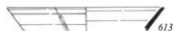
610



611



612



613



614



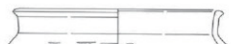
615

落ち込み



616

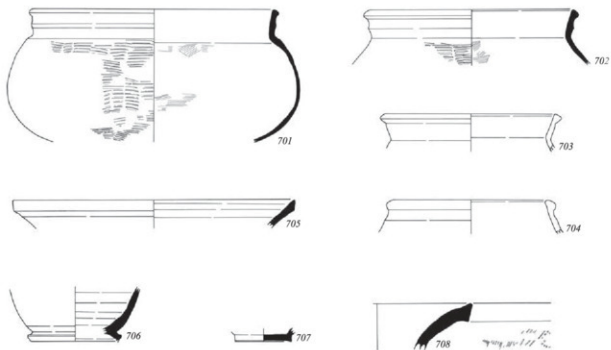
SK01



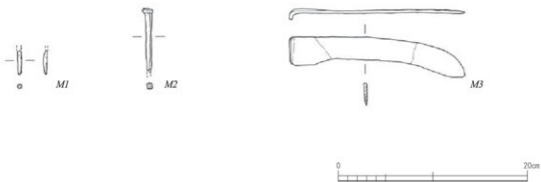
617



包含層



金屬器



写真図版



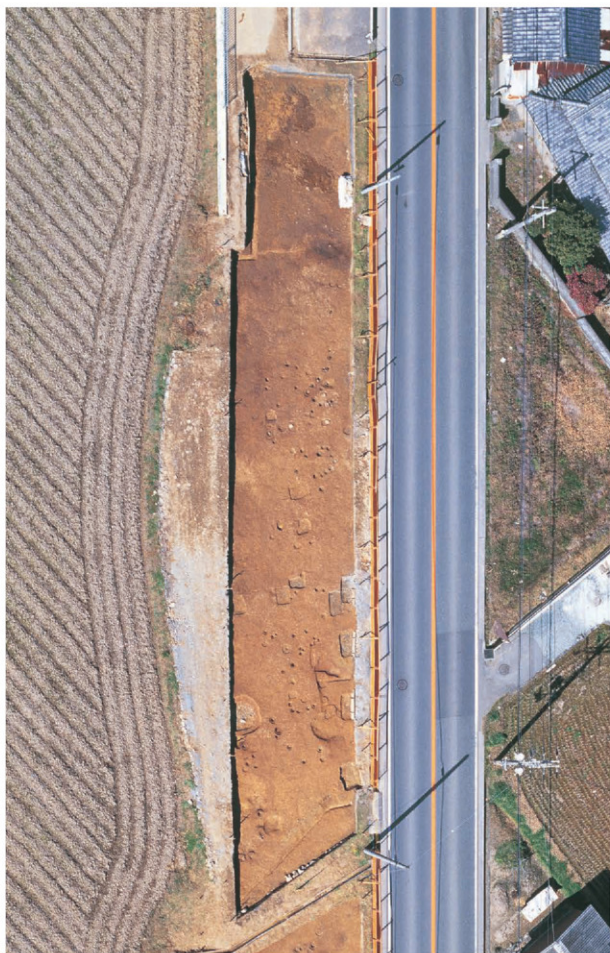
a) 大崎・鳥居元遺跡 遠景（西から）



b) 大崎・鳥居元遺跡 遠景（南から）



大崎遺跡 全景



大崎遺跡 II区全景

遺構写真図版 4



a) SD01 全景



b) SD01 (南東から)



a) SD01 (北西から)



b) SD01 土層断面b (北西から)



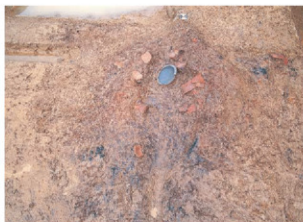
c) SD01 土層断面a (西から)



鳥居元遺跡 I区全景



a) SH01 (南東から)



b) カマド (南東から)



c) カマド内土器出土状況 (南西から)



d) カマド土層断面 (南東から)



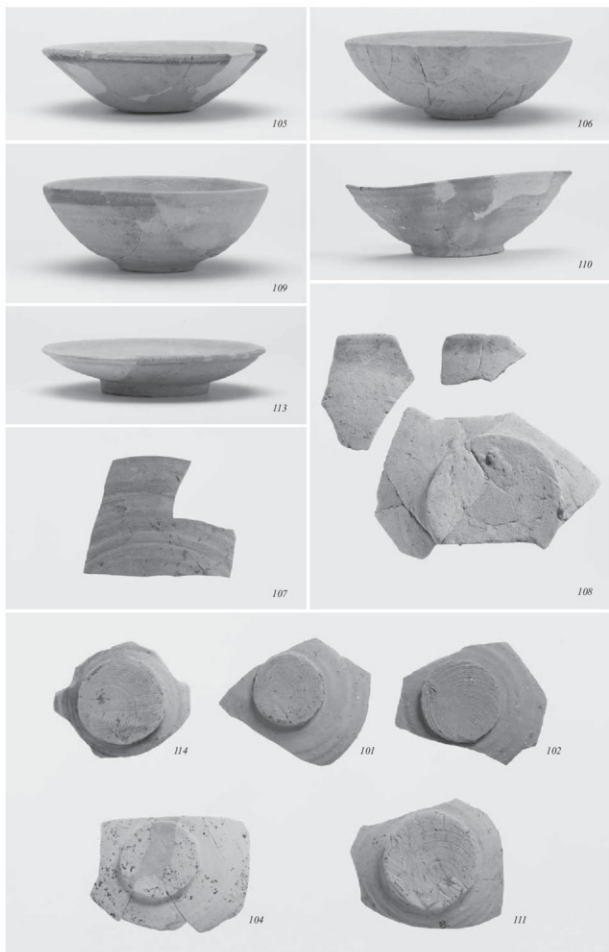
e) 土器出土状況 (南東から)



a) 鳥居元遺跡 II区 (北西から)



b) 鳥居元遺跡 II区 (南東から)

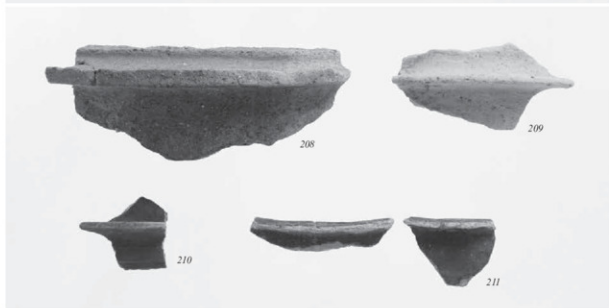


SD01 上層出土土器(1)

遺物写真図版 2

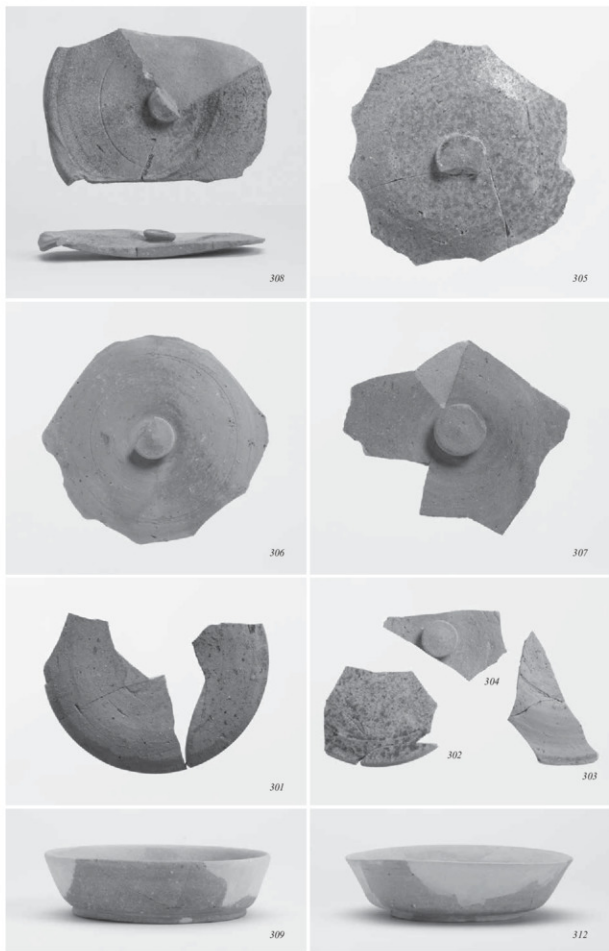


SD01 上層出土土器(2)



SD01 上層出土土器(3)

遺物写真図版 4



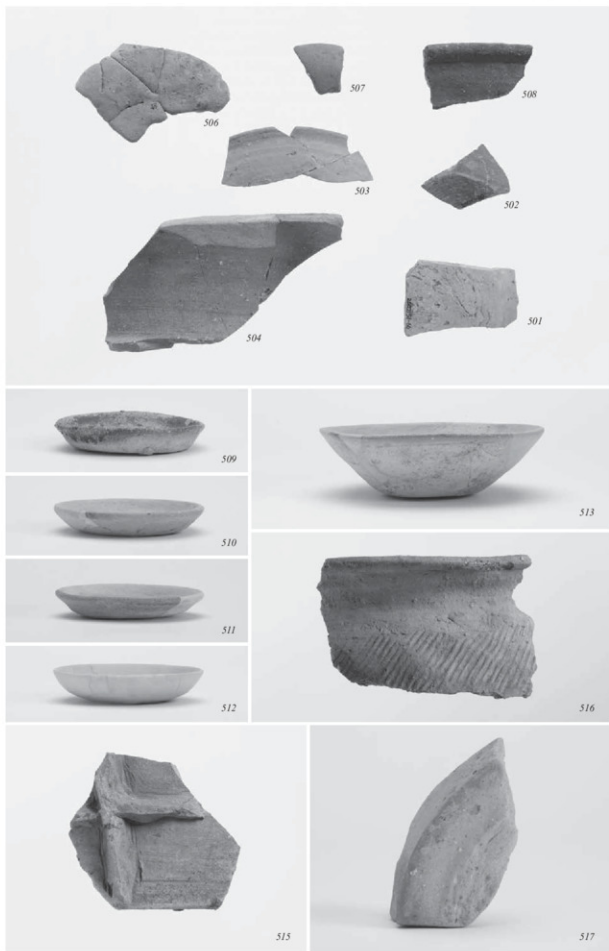
SD01 下層出土土器(1)



SD01 下層出土土器(2)



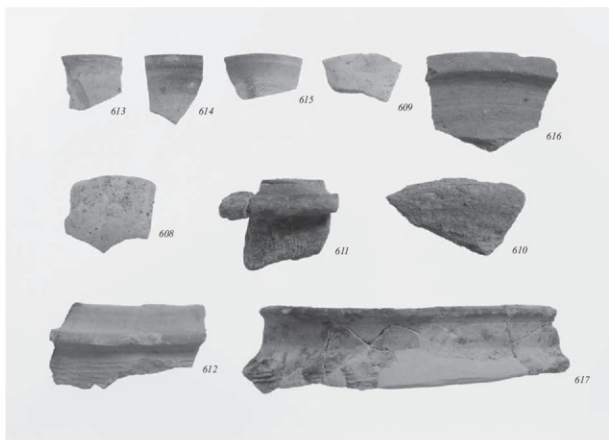
SD01 下層出土土器(3)



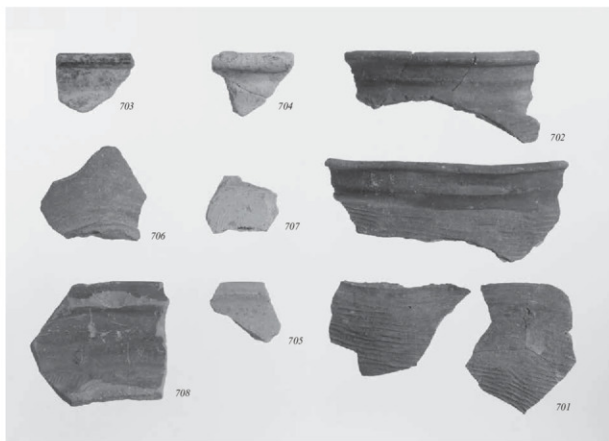
ビット・包含層出土土器



SH01 内出土土器・金属器



a) ビット・落ち込み・SK01 出土土器



b) 包含層出土土器

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおさき・とりいもと いせき							
書 名	大崎・鳥居元遺跡							
副 書 名	道路改良事業((主)三木穴栗線)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番号	第448冊							
編 著 者 名	森内秀造							
編 集 機 関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部							
所 在 地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号(兵庫県立考古博物館内) In079-437-5561							
発 行 機 関	兵庫県教育委員会							
所 在 地	〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号 In078-362-3784							
発 行 年 月 日	平成25 (2013) 年3月28日							
資料保管機関	兵庫県立考古博物館							
所 在 地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号 In079-437-558							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間 (遺跡調査番号)	調査面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
大崎遺跡 <small>オホサキノイセキ</small>	兵庫県加西市 畑町大崎 <small>オホサキノイセキ</small>	300329	28220	34°56' 55"	134°48' 32"	大崎・鳥居元遺跡 20021107～20021108 (2002151)	32㎡	記録保存調査
						20030120～20030314 (2002205)	734㎡	
						20030317～20030318 (2002252)	29㎡	
						鳥居元遺跡 20030317～20030318 (2002255)	19㎡	
						20030422 (2003064)	18㎡	
						20030120～20030314 (2002217)	183㎡	
						20030506～20030509 (2003065)	120㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
大崎遺跡 ・ 鳥居元遺跡	古墳時代後期	竪穴住居址	須恵器・土師器・鉄器	カマド・焼失住居				
	奈良時代	溝	須恵器・土師器	灌漑用水路				
	中世	掘立柱建物 土坑	須恵器・土師器・瓦・瓦質土器・白磁					
要 約	<p>大崎・鳥居元遺跡では多数の柱穴を検出し、13世紀から14世紀にかけての8棟の掘立柱建物を復元することができた。両遺跡ともに中世の須富荘の荘域にあっており、その後領主となった河原氏の集落の一角と考えられる。下層では8世紀代から10世紀代にかけて灌漑用水路として機能していたと考えられる溝を検出した。西に向けて遺構検出が傾斜し、遺構も数少なくなっていくことから、集落縁辺部にあたると思われる。</p> <p>また、鳥居元遺跡では屋内施設に竈をもち、梁・桁と思われる炭化材が遺存する古墳時代後期の焼失住居を検出した。このことにより、今まで未発見であった鳥居元遺跡の居住性が明らかとなった。</p>							

兵庫県文化財調査報告 第448冊

加西市

大崎・鳥居元遺跡

— 道路改良事業(主)三木穴築蔵に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成25(2013)年3月28日 発行

編集：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号
(兵庫県立考古博物館内)

発行：兵庫県教育委員会
〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印刷：株式会社吉木宝文堂
〒675-1343 兵庫県小野市来住町883-2
